

ヒブワクチン Q&A

ヒブ(ヘモフィルス・インフルエンザ菌 b 型)について

Q1. ヒブとはなんですか？

ヒブとは、「インフルエンザ菌 b 型」という細菌の略称で、冬に流行するインフルエンザ（流行性感冒）の原因である「インフルエンザウイルス」と名前は似ていますが、まったく別のものです。ヒブによる細菌性髄膜炎は、5歳未満の乳幼児にかかりやすく、特に0～1歳の乳幼児はかかりやすいので注意が必要です。

Q2. ヒブと細菌性髄膜炎の関係は？

日本では年間約600人の乳幼児が重いヒブ感染由来の細菌性髄膜炎にかかっています。ヒブ(ヘモフィルス・インフルエンザ菌 b 型)がのどから入り、脳を包む髄膜(ずいまく)、のどの奥の喉頭蓋(こうとうがい)、肺などに炎症を起こします。病気の始まりはかぜなどと区別がつきにくく、血液検査でもあまり変化が出ません。このため診断が遅くなりがちです。その後、けいれんや意識障害が出てきます。また、抗菌薬が効かない耐性菌も多く、治療は困難です。亡くなる子どもは5～10%おり、脳の後遺症が約30%に残ります。髄膜炎による後遺症として、発達・知能・運動障害などの他、難聴(聴力障害)が起こることがあります。

ヒブワクチンについて

Q3. 効果と安全性は？

ヒブワクチンは、世界の100カ国以上の国で接種が行われており、細菌性髄膜炎などの侵襲性ヒブ感染症に対する高い予防効果が期待できます。このワクチンは、製造の初期段階に、ウシの成分(フランス産ウシの肝臓および肺由来成分、ヨーロッパ産ウシの乳由来成分、米国産ウシの血液および心臓由来成分)が使用されていますが、その後の精製工程を経て製品化されています。このワクチンが原因でTSE(伝達性海綿状脳症)かかったという報告は1例もありません。理論上のリスクは否定できないものの、このワクチンを接種した人がTSE(伝達性海綿状脳症)にかかる可能性はほとんどないと考えられます。

Q4. 接種スケジュールは？

接種開始の年齢	初回	追加	接種回数
生後2か月～6か月に開始	4～8週の間隔で3回接種	3回目から7～13か月後に接種	4回
生後7か月～11か月に開始	4～8週の間隔で2回接種	2回目から7～13か月後に接種	3回
1歳～4歳に開始	1回のみ【5歳未満に接種】		1回

Q5. 接種後の副反応は？

国内臨床実験での副反応出現率は61.0%であり、その主なものは、発赤(赤み)44.2%、腫脹(腫れ)18.7%、硬結(しこり)17.8%、不機嫌14.7%等でした。その他全身反応として、発熱、せき、鼻水等が5%未満あります。なお、海外の報告から、重大な副反応として、ショック、アナフィラキシー様症状(じんましん、呼吸困難、血管浮腫、顔面浮腫等)、けいれん(熱性けいれん含む)、血小板減少性紫斑病が非常に稀にあります。